

# 様式例11 指定管理者制度活用事業 評価シート

## 指定管理者制度活用事業 評価シート

### 1. 基本事項

施設名称	川崎市大山街道ふるさと館	評価対象年度	令和元年度
事業者名	事業者名 川崎市大山街道ふるさと館共同運営事業体 代表団体 公財)川崎市生涯学習財団 代表者 理事長 渡邊 直美 住所 中原区今井南町28-41 構成団体 認定特定非営利活動法人教育活動総合サ ポートセンター	評価者	総務課長
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	所管課	高津区役所まちづくり推進部総務課

### 2. 事業実績

利用実績	貸室利用者数32,311人、貸室利用件数2,038件、展示室利用者数9,142人
収支実績	収入総額28,560,252円（指定管理委託費25,208,370円、利用料金収入2,507,640円、雑収入538,345円） 支出総額27,647,358円
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備にあたり、1F多目的トイレの前広便座交換工事、1FトイレのLED交換工事などを実施した。</li> <li>学芸担当員を新規に配置し、展示の質的向上と話題性のある企画展を開催し、利用率を向上させた。</li> <li>街道学習講座・ふるさとまち歩き講座において利用者の意を汲み、イヤホンガイドを導入することで、講座の理解度及び安全性が高まった。</li> </ul>

### 3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	4(0.8)	8
		施設の設置目的に沿った適切な運営を行っているか			
(評価の理由) 事業計画に沿った過年度からの継続的な取組みを行い、安定的、継続的な事業を実施したほか、高津区民祭や冬のふるさと館まつりなどを通して、地域活性化に貢献していると認められる。 学芸担当員の新規配置により、より分かりやすい常設展示、企画展示の実施規模の拡大に加え、各種媒体を利用した積極的な広報PRを行った。さらに、ウォーキングステーション事業を開始したことにより、地域の拠点としての役割も深まり、来館者総数も前年度65,655人から約3,500人増の69,222人となった。 総合的な運営状況として、施設の設置目的に沿った取組が行われていると認められる。					
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	適正な収支計画に基づき、安定した運営を行っているか	10	3(0.6)	6
		市民サービスの向上に努めながら、効率的な予算執行が図られているか			
適切な金銭管理・会計手続	適正な料金徴収を行い、遺漏のない金銭管理を行っているか		5	3(0.6)	3
		(評価の理由) 前年度と同程度の経費執行状況ながら、利用料金収入等の増収分については、トイレの修繕や照明の一部LED化を実施するなど、市民サービス向上に役立て、限られた予算内で工夫した執行を行い取り組みを実施していることなど評価できる。 利用料金の未収金を発生させることなく徴収事務を的確に執行している。			
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	市民に親しまれるふれあいと学習の場を提供しているか	20	4(0.8)	16
		広報活動等、施設の利用促進に向けた取り組みが為されているか			
		地域団体や他施設と連携して地域及び施設の活性化に寄与する事業を展開しているか			
	郷土の理解を促進する取り組み	郷土の理解を促進する、魅力ある企画展を提供しているか	15	3(0.6)	9
常設展示について、来館者に訴求する展示となるよう工夫や改善が為されているか					
利用者の意見・要望への対応	市民のニーズに即した文化事業を行っているか	15	4(0.8)	12	
	利用者の立場に立ったサービス提供を行い、利便性の向上に努めているか				
(評価の理由) 地域連携や地域活性化に向けた取り組みとして、春のふるさと館まつり、高津区民祭、ふるさと館サポーターズまつり、冬のふるさと館まつりなど季節ごとにイベントの開催や連携協力を行い実施し、大山街道の魅力やふるさと館のPRを行った。これらのイベントは地域活性化や地域団体との連携強化に寄与しただけでなく、通常の展示室利用者とは異なる層の市民・区民が来館したことで館の認知度向上にもつながることであり、評価できる。特に「ふるさと館だより」の発行部数を2,000部に倍増し、より広域に広報を実施できたことは効果的であったと思われる。 街道学習講座等においては、利用者の意をくみ、イヤホンガイドを活用することで、サービス向上、安全性の向上を図ることができた。 継続して取り組んでいる小中学生を対象とした各種地域学習については、教育に関する専門性の高さを活かし、館への生徒受け入れ、依頼による講師派遣、子ども大山街道探検クラブの活動、夏休み期間の自由課題支援など、子ども達の郷土理解を多方面から促進できており、歴史文化探求施設としての役割を十分に果たしている。					

組織管理体制	適正な人員配置	適切に職員を配置し、円滑なローテーションを行っているか	5	4(0.8)	4
	担当者のスキルアップ	業務に関する研修を行い、職員の資質向上に努めているか	5	3(0.6)	3
	安全・安心への取組	通常の安全管理や、緊急時を想定した計画・訓練などを行うとともに利用者のニーズの把握につとめ適切な対応を行っているか	5	4(0.8)	4
	コンプライアンス	個人情報の保護や情報公開を適切に行っているか	5	3(0.6)	3
(評価の理由)					
財団職員を4名体制としたことで、全ての利用時間帯に週4以上勤務する職員を配置することができ、管理運営上の事務処理や利用者への対応をよりきめ細かに実施することができたこともあり、貸室利用件数が、昨年度2,021件から今年度2,038件に増加した。特にイベントホールの利用率が46.9%から50.1%に増加したことにより、貸室収入が向上したことは、評価に値する。 施設の安全管理においては、区役所が主導する防災関連の各種施策への積極的な参加・協力、防災に関する訓練や研修の実施、感染症対策に係る独自の備蓄品の充実などに加え、1階・2階スロープの落下防止対応や4階倉庫のセキュリティ強化の実施等も着実に実行されている点は評価に値する。					
業務実施	施設・設備の保守管理	施設利用の提供に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に行っているか	5	3(0.6)	3
	(評価の理由) 施設の老朽化が進む中、定期点検等を遺漏なく行い、施設点検表を用いた管理や各種修繕を実施するなど適切な施設管理が為されている。				

#### 4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組	言語や障害の隔てなく利用できる、ユニバーサルな施設となっているか。			1
	(評価の理由) 川崎市における福祉のまちづくり施策においては、公共施設のバリアフリー化が重点課題となっている中、館としての必要性を把握し、1F多目的トイレの前広便座交換工事を実施したことで、障害をもった利用者も安心して利用できるユニバーサルな施設としての機能・役割を深めることができたことは評価に値する。				

#### 5. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

#### ※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

#### 6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>常設展の展示方法の工夫、企画展の実施回数の増加等やイヤホンガイドを導入したまち歩き講座の実施及び館主催や連携協力をを行ったイベントの開催など、基本方針や理念に則った事業執行は、評価に値する。さらに、ウォーキングステーション事業を開始して、地域の健康活動の拠点としての役割を深めたことにより、総来館者数、貸室稼働率、展示室利用者数など各種指標に表れており、これらを評価点に反映させた。</p> <p>職員の追加配置や館長を含めた勤務シフトの見直し等を行ったことにより、館のサービス向上につなげた点や1階・2階スロープの落下防止対応等の安全管理も着実に実行されている。</p>
---

#### 7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>過年度の取組みを踏まえ、人材育成や利用者ニーズ把握等、サービス向上に係る各種取組みを継続しながら、事業計画に基づき事業を適正に実行するとともに、新たな取組にチャレンジすること。</p> <p>貸室業務については、公平かつ平等な利用を確保しつつ、貸室利用件数や稼働率の好調を維持すること。また各種機会を捉えた貸室利用料収入の向上の実現に向けて一層工夫と努力を行うこと。特に利用者アンケート等の分析から具体的な目標等を設定し、館の運営に反映されたい。</p> <p>博物館事業においては、企画展の実施回数を増やすことで、新鮮な情報の提供が可能となったため、常設展示の充実も含め、イベントに頼らない館の認知度向上に努められたい。また、イベントで利用いただいた利用者に対して、展示に触れ、郷土理解を深めてもらうよう次のステップを意識されたい。</p> <p>全体的な管理運営においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みを徹底すること。貸室の利用開始時にチェックシートを用いる等し、利用者の状況把握と三密回避や手洗いがいの等予防に係る注意喚起に努めること。</p> <p>施設管理にあたっては、安全な利用のための各種設備機器のメンテナンスはもとより、利用者意見を踏まえた設備の改善・充実を継続して行い、利用者にとってより快適で利便性の高い施設となるよう工夫すること。特に消毒液の配置、館内の換気、貸室利用後の備品の消毒などを徹底すること。</p> <p>これまで構築した地域団体との良好な関係を維持し、地域主体の行事への積極的な協力等や館主催事業における連携をさらに深めること。また、これまでふるさと館を利用していない市民、団体を誘客する方法の検討を行うなど、各種機会を捉えて利用者の増加に向けて一層努めること。</p> <p>市民はもとより来街者や訪日外国人などにとって魅力ある館となるよう、広報や展示内容の充実にも努めるとともに、さらには大山街道や高津区の振興に寄与できるよう、より一層の努力と工夫を行いふるさと館の管理運営を実施すること。</p>
---